

第 57 回日本透析医学会総会 2012 年 6 月（札幌市）

『ワークショップ 在宅透析と長時間透析』

糖尿病性腎症患者の 6 時間透析における生存率と合併症

医療法人幸善会 前田病院

前田利朗

【目的】

1989 年 8 月から現在までの 22 年余にわたり、当院では全患者に 6 時間透析を実施してきた。今回、糖尿病性腎症による透析患者について、その生存率と死亡原因、合併症などについて調査検討した。

【方法】

1) 2011 年 7 月末日現在における累積生存率調査

6 時間透析における累積生存率であることを明確にするために、（1）当院で透析導入後、そのまま 6 時間透析を 6 ヶ月以上継続しているもの （2）他施設での導入後、6 ヶ月以内に当院へ転院し、以後、6 時間透析を 6 ヶ月以上継続しているもの、という条件を満たした 221 人（男 134 人、女 87 人）を調査対象とした。このうち、糖尿病性腎症患者は 73 人（男 48 人、女 25 人）であった。累積生存率の算出は Kaplan-Meier 法を用いた。

2) 死亡原因の分類調査

死亡原因は臨床診断によるものであり、その分類は日本透析医学会の統計調査の項目に準じた。

【結果】

- 1) 6時間透析における糖尿病性腎症患者の累積生存率は5年80.7%、10年46.3%、15年28.4%であり、非糖尿病患者はそれぞれ82.7%、60.0%、48.5%であった。因みに、日本透析医学会調査報告（2010年12月31日現在）では、糖尿病性腎症患者（1983年以降導入）の生存率は5年54.5%、10年26.9%、15年12.2%であった。
- 2) 糖尿病性腎症患者73人中、28人が観察期間中に死亡したが、その死因は感染症が8例28.6%で最も多く、次いで悪性腫瘍6例、心筋梗塞5例が続き、心不全は1例のみであった。死亡時年齢は糖尿病群が69.7歳に対し、非糖尿病群は72.6歳であった。

【考察】

糖尿病性腎症患者の累積生存率は、非糖尿病患者に比べて10年目以降で低下する傾向が見られた。とくに15年生存率の低下が目立ち、糖尿病性腎症患者にとって、15年生存はひとつの大きな壁であるように思われた。至適透析の指標として生存率を見た場合、当院の6時間透析の成績は全国平均と比較して明らかに良好であり、末期腎不全患者の治療方法として血液透析を考えた場合、透析時間は長い方が優れていると結論できると考える。